

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人東京医科大学
理事長 田中 慶司

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	86.0 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	621人	181人	639.7人	看護補助者	88人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	27人	8人	28.3人	理学療法士	7人	臨床検査技師	104人
薬剤師	60人	0人	60.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	2人
保健師	6人	0人	6.0人	視能訓練士	9人	その他	1人
助産師	31人	0人	31.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	931人	14人	939.7人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	5人	0人	5.0人	栄養士	3人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	2人	事務職員	234人
管理栄養士	10人	4人	10.7人	診療放射線技師	66人	その他の職員	21人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	746 人	8 人	754 人
1日当たり平均外来患者数	2,620 人	91 人	2,711 人
1日当たり平均調剤数		773 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
超音波骨折療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、 観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	155人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	109人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術 (虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	120人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	58人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	85人	・原発性胆汁性肝硬変	64人
・全身性エリテマトーデス	310人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	16人
・再生不良性貧血	67人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	110人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	5人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	134人	・網膜色素変性症	53人
・特発性血小板減少性紫斑病	119人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	30人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	211人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	20人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	60人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	23人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	62人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	130人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	83人	・肥大型心筋症	8人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	31人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	38人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	56人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靭帯骨化症	9人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	43人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に4回程度 (「臨床病理検討会」を毎月最終月曜日に定例開催)
部 検 の 状 況	部検症例数 50 例 / 部検率 6.1%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
難治性ぶどう膜炎におけるタクロリムスの神経保護の解明と臨床応用に向けた開発	大井 桂子	眼科学	900	補委 文部科学省
難治性ぶどう膜炎における免疫補助シグナル分子の制御機構解明と新規治療法の開発	臼井 嘉彦	眼科学	1,800	補委 文部科学省
癌に対する低侵襲局所療法と樹状細胞癌ワクチン療法との融合による相乗効果	佐治 久	外科学(1)	1,400	補委 文部科学省
進行肺癌に対する次世代型インターベンション治療の開発	大谷 圭志	外科学(1)	800	補委 文部科学省
呼吸器外科手術における赤外観察カメラシステムを用いた至適切除範囲の研究	一ノ瀬 修二	外科学(1)	1,300	補委 文部科学省
REM睡眠下の眼振解析によるめまい診断法の確立	北島 尚治	耳鼻咽喉科学	100	補委 文部科学省
頭頸部領域の前癌病変と扁平上皮癌における癌化および進展のメカニズムの解明	北村 剛一	耳鼻咽喉科学	1,000	補委 文部科学省
夜勤中の仮眠直後に生じる睡眠慣性がエラー反応後の認知的処理に及ぼす影響	浅岡 章一	睡眠学講座	500	補委 文部科学省
領域別診療フレーム解析を用いた救急医療における医療安全と質保証に関する研究	織田 順	救急医学	1,700	補委 日本学術振興会
診療フレーム解析による救急医療の標準化阻害因子とその解決策に関する研究	織田 順	救急医学	1,600	補委 日本学術振興会
高齢化社会を豊かにするIT活用医療支援システムの構築:ICタグによる尿失禁検知	秦野 直	泌尿器科学	6,200	補委 日本学術振興会
発作性頭位めまい症の発症メカニズムとエストロゲンの前庭器内局在に関する基礎的研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	700	補委 日本学術振興会
創傷治癒過程におけるToll様受容体シグナルの役割	坪井 良治	皮膚科学	1,000	補委 日本学術振興会
吸入麻酔ターゲット因子の新規定量解析による麻酔作用機序の考究	関根 秀介	麻酔科学	900	補委 日本学術振興会
新規脳保護法を導く脳内トランスポーターコントロールの解明	室園 美智博	麻酔科学	1,200	補委 日本学術振興会
アストロサイト由来Int6・HIF2 α を標的とした新規脳蘇生法確立の試み	内野 博之	麻酔科学	1,000	補委 日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫に対する次世代型発光ダイオード診断治療装置の開発	臼田 実男	外科学(1)	1,300	補委 日本学術振興会
婦人科癌における新規パクリタキセル感受性遺伝子によるテーラーメイド医療の確立	井坂 恵一	産科婦人科学	1,000	補委 日本学術振興会
肥厚性瘢痕病態解明と治療薬開発のための基礎動物研究	松村 一	形成外科学	1,200	補委 日本学術振興会
眼内悪性腫瘍における新規免疫療法の開発	後藤 浩	眼科学	600	補委 日本学術振興会
分子標的治療薬の早期効果予測を目的とした超音波分子標的イメージング法の開発	杉本 勝俊	内科学(4)	840	補委 日本学術振興会
国内未承認エイズ治療薬等を用いたHIV感染症治療薬及びHIV感染症至適治療法の開発に係る応用研究	福武 勝幸	臨床検査医学	92,271	補委 厚生労働省
門脈血行異常症に関する調査研究	森安 史典	内科学(4)	25,000	補委 厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	飯森 眞喜雄	精神医学	5,600	補委 厚生労働省
治験の実施に関する研究[PDT半導体レーザー・タラポルフィンナトリウム]	秋元 治朗	脳神経外科学	1,600	補委 厚生労働省
高度医療技術の効率化及び標準化の開発に関する研究	池田 徳彦	外科学(1)	1,200	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
粒子線治療の有効性、適応、費用対効果に関する総合的研究	池田 徳彦	外科学(1)	1,000	補委 厚生労働省
システム生物学的方法論による癌のバイオマーカー及び分子標的の探索	野村 将春	外科学(1)	3,000	補委 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	重松 宏	外科学(2)	2,000	補委 厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法の確立に関する研究	青木 達哉	外科学(3)	800	補委 厚生労働省
臨床病期II・IIIの下部直腸癌に対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	青木 達哉	外科学(3)	1,000	補委 厚生労働省
人由来組織利用研究円滑化のための社会的・技術的インターフェースの整備	青木 達哉	外科学(3)	600	補委 厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	土田 明彦	外科学(3)	3,000	補委 厚生労働省
骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究	大屋敷 一馬	内科学(1)	4,400	補委 厚生労働省
難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	伊藤 良和	内科学(1)	500	補委 厚生労働省
多施設共同研究に登録された白血病の検体収集と中央保存システムの確立	田内 哲三	内科学(1)	700	補委 厚生労働省
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	森安 史典	内科学(4)	2,800	補委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究班	後藤 浩	眼科学	800	補委 厚生労働省
進行頭頸部癌に対する漢方治療の有効性評価	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	600	補委 厚生労働省
前庭機能異常に関する調査研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	1,600	補委 厚生労働省
自己免疫性内耳障害の実態把握のための多施設研究	鈴木 衛	耳鼻咽喉科学	1,000	補委 厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	西 洋孝	産科婦人科学	2,000	補委 厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	河島 尚志	小児科学	400	補委 厚生労働省
インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法、予防法の確立に関する研究	河島 尚志	小児科学	1,000	補委 厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	宮島 祐	小児科学	400	補委 厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	山本 謙吾	整形外科	1,000	補委 厚生労働省
地域・職域における生活習慣病予防活動・疾病管理による医療費適正化効果に関する研究	織田 順	救急医学	1,200	補委 厚生労働省
薬剤耐性HIVの動向把握のための調査体制確立及びその対策に関する研究	福武 勝幸	臨床検査医学	2,000	補委 厚生労働省
血友病とその治療に伴う合併症の克服に関する研究	稲葉 浩	臨床検査医学	3,000	補委 厚生労働省
「メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現」(閉塞性動脈硬化症における個別化医療の実現)	重松 宏	外科学(2)	6,363	補委 文部科学省 科学技術振興費
多視点化による「共有する医療」の実現に向けた研究	行岡 哲男	救急医学	9,330	補委 科学技術振興機構 社会技術研究開発事業
弾性繊維形成タンパク質を標的とした疾患診断、治療薬の開発	富山 博史	内科学(2)	1,154	補委 科学技術振興機構 産学共同イノベーション 事業

小計 26
合計 52

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
1	Medical Education 43: 729-740, 2009	A hypothesis-driven physical examination learning and assessment procedure for medical students: initial validity evidence	Rachel Yudkowsky*	総合診療科
2	Molecular and Cellular Biology, 2009, 29: 3687-99.	MEF opposes p53 function to suppress oncogene-induced senescence.	Sashida G	血液内科
3	Leukemia Research, 2009, 33:506-508.	Compliance with taking imatinib mesylate in patients with chronic myeloid leukemia in the chronic phase.	Kiguchi T	血液内科
4	Japanese Journal of Clinical Oncology, 2009, 39:509-13.	Detection of low allele burden of JAK2 exon 12 mutations using TA-cloning in patients with erythrocytosis.	Ohyashiki JH	血液内科
5	Leukemia Research, 2009, 33:756-758.	Evaluation of cardiac iron overload in transfusion-dependent adult marrow failure patients by magnetic resonance imaging.	Park J	血液内科
6	Cancer Letters, 2009, 284:62-70.	Anti-proliferative activity of heat shock protein (Hsp) 90 inhibitors via β -catenin/TCF7L2 pathway in adult T cell leukemia cells.	Kurashina R*	血液内科
7	International Journal of Hematology, 2009, 89:679-688.	A Phase I/II study of nilotinib in Japanese patients with imatinib-resistant or -intolerant Ph+ CML or relapsed/refractory Ph+ ALL.	Tojo A*	血液内科
8	International Journal of Hematology, 2009, 89: 546-548.	Restoration of cardiac function by an iron chelation therapy with deferasirox in a patient with aplastic anemia and cardiac iron overload.	Kiguchi T	血液内科
9	Plos ONE, 4:e5532.	Down-regulation of miR-92a in human plasma is a novel marker for acute leukemia patients.	Tanaka M	血液内科
10	Cancer Science, 2009, 100: 970-977.	The oral chelator deferasirox represses signaling through the mTOR in myeloid leukemia cells by enhancing expression of REDD1.	Ohyashiki JH	血液内科
11	International Journal of Molecular Medicine, 2009, 23:709-716.	Growth inhibitory effects of vitamin K2 on colon cancer cell lines via different types of cell death including autophagy and apoptosis.	Kawakami H	血液内科
12	Int J Hematol. 2009 ;89(3):326-31.	The effect of adding rituximab to CHOP-based therapy on clinical outcomes for Japanese patients with diffuse large B-cell lymphoma: a propensity score matching analysis.	Nishimori H*	血液内科
13	Int J Hematol. 2010 91(1):128-31.	Successful prior treatment with dasatinib followed by stem cell transplantation in a patient with CML in blastic crisis with a BCR-ABL mutation.	Gotoh M	血液内科
14	Hematology. 2010 ; 15(1):43-7.	Aberrant expression of NK cell receptors in Epstein-Barr virus-positive gammadelta T-cell lymphoproliferative disorders.	Zhang Y	血液内科
15	Ann Hematol. 2010 89(7):733-5.	Idiopathic neutropenia with fewer than 5% dysplasia may be a distinct entity of idiopathic cytopenia of undetermined significance.	Ando K,	血液内科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
16	Leuk Res. 2010 34(3):403-5.	Speciation of arsenic trioxide penetrates into cerebrospinal fluid in patients with acute promyelocytic leukemia.	Kiguchi T	血液内科
17	Am J Hypertens Jun 22(6): 630-636, 2009	Predictors of progression from prehypertension to hypertension in Japanese men	Tomiyama H.	循環器内科
18	American J Cardiology 103(9): 1215-1220, 2009	Prevalence of coronary heart disease in patients with aortic aneurysm and/or peripheral artery disease	Hirose K.	循環器内科
19	J Hypertens 27(10): 2022-2207, 2009	Comparison between carotid-femoral and brachial-ankle pulse wave velocity as measures of arterial stiffness	Tanaka H*.	循環器内科
20	Cardiovascular Research 83(1): 80- 88, 2009	Impaired binding of ZASP/Cypher with phosphoglucosylase 1 is associated with dilated cardiomyopathy	Arimura T*.	循環器内科
21	J Rheumatology 36(1): 1-7, 2009	Cardiac magnetic resonance imaging with pharmacological stress perfusion and delayed enhancement in asymptomatic patients with systemic sclerosis	Kobayashi H*.	循環器内科
22	Hypertension Res 32(2): 122-126, 2009	Synergistic effect of smoking and blood pressure on augmentation index in men, but not in women	Tomiyama H.	循環器内科
23	Hypertension Res 32(3): 201-206, 2009	Concomitant existence and interaction of cardiovascular abnormalities in obstructive sleep apnea subjects with normal clinic blood pressure	Tomiyama H.	循環器内科
24	J Nucl Cardiol 16(1): 20-27, 2009	Diagnostic value of left ventricular function after adenosine triphosphate loading and at rest in the detection of multi-vessel coronary artery disease using myocardial perfusion imaging	Hida S.	循環器内科
25	Circ J 73(9): 1655- 1660, 2009	Comparative impact of scintigraphic parameters and B-type natriuretic peptide for the prediction of major cardiac events in the QGS-prognostic value in the elderly(Q-PROVE) study	Igarashi Y.	循環器内科
26	Int J Cardiovasc Imaging 25: 131- 138, 2009	Frequency and distribution of late gadolinium enhancement in magnetic resonance imaging of patients with apical hypertrophic cardiomyopathy and patients with asymmetrical hypertrophic cardiomyopathy: a comparative study	Yamada M.	循環器内科
27	Respiration 78(3): 278-284, 2009	New index for analysis of polysomnography, 'integrated area of desaturation', is associated with high cardiovascular risk in patients with mild to moderate obstructive sleep apnea	Asano K.	循環器内科
28	Hypertension Res 32(2): 127-132, 2009	Association of blood pressure levels with the effects of alcohol intake on the vasculature in Japanese men	Matsumoto C.	循環器内科

小計
13件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
29	J Cardiol 53(1): 43-52, 2009	Important parameters in the detection of left main trunk disease using stress myocardial perfusion imaging	Shiba C.	循環器内科
30	J Arrhythmia 25(1): 16-23, 2009	Clinical meaning of right bundle branch block pattern on surface electrocardiogram in pacemaker patients during right ventricular endocardial pacing	Abulaiti A.	循環器内科
31	Ann Nucl Med 23(10): 849-854, 2009	Prognostic value of myocardial perfusion SPECT images in combination with the maximal heart rate at exercise testing in Japanese patients with suspected ischemic heart disease: a sub-analysis of J-ACCESS	Ueshima K*.	循環器内科
32	Curr Med Res Opin 25(12): 2925-2932, 2009	Long-term effects of pioglitazone in Japanese patients with type 2 diabetes without a recent history of macrovascular morbidity	Kaku K*.	循環器内科
33	J Cardiol Jpn Ed 4(2): 106-110, 2009	睡眠時無呼吸が冠血流予備能におよぼす影響	黒羽根 彩子	循環器内科
34	Clin Exp Rheumatol 27(6): 989-92, 2009.	Citrullinated antigens as C1q-binding and monoclonal rheumatoid factor (mRF)-binding peptides in synovial fluids from rheumatoid arthritis patients.	T. Sawada	リウマチ膠原病内科
35	Rheumatology 2009;48:1069-1072.	on behalf of the Study Committee for Leflunomide-induced Lung Injury, Japan College of Rheumatology. Leflunomide-induced interstitial lung disease: prevalence and risk factors in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	Sawada T	リウマチ膠原病内科
36	Rheumatology 48(10):1265-8, 2009.	on behalf of the Study Committee for Leflunomide-induced Lung Injury, Japan College of Rheumatology.	Sato T	リウマチ膠原病内科
37	Gastrointest Endosc 69(1): 136-141, 2009	A novel approach emphasizing preoperative margin enhancement of tumor of the major duodenal papilla with narrow-band imaging in comparison to indigo carmine chromoendoscopy (with videos)	Itoi T	消化器内科
38	Am J Gastroenterol 104(3): 560-565, 2009	Endoscopic sphincterotomy combined with large balloon dilation can reduce the procedure time and fluoroscopy time for removal of large bile duct stones	Itoi T	消化器内科
39	Acad Radiol 16(4): 401-411, 2009	Computer-aided diagnosis of focal liver lesions by use of physicians' subjective classification of echogenic patterns in baseline and contrast-enhanced ultrasonography	Sugimoto K	消化器内科

小計
11件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
40	Am J Roentgenol 193(1): 86-95, 2009	Efficacy of perflubutane microbubble-enhanced ultrasound in the characterization and detection of focal liver lesions: phase 3 multicenter clinical trial	Moriyasu F	消化器内科
41	Acad Radiol 16(7): 798-809, 2009	Improved detection of hepatic metastases with contrast-enhanced low mechanical-index pulse inversion ultrasonography during the liver-specific phase of sonazoid: observer performance study with JAFROC analysis	Sugimoto K	消化器内科
42	Gastrointest Endosc 69(3 pt1): 509-516, 2009	Experimental endoscopy: objective evaluation of EUS needles	Itoi T	消化器内科
43	日本大腸検査学会雑誌 26(1): 54-60, 2009	Crohn病におけるバルーン小腸内視鏡の有用性	大島 敏裕	消化器内科
44	Dig Endosc 21(Suppl 1): S108-112, 2009	Diagnostic videocholangioscopy using narrow-band imaging and recanalization by rendezvous technique for difficult benign biliary stricture	Itoi T	消化器内科
45	Gastrointest Endosc 69(7): 1389, 2009	Spontaneous passage of bile duct stone, mimicking laying an egg (with video)	Itoi T	消化器内科
46	World J Gastroenterol 2010;16:1727-34.	Effectiveness of narrow-band imaging magnification for invasion depth in early colorectal cancer	Fukuzawa M, Saito Y, Matsuda T Uraoka T, Itoi T, Moriyasu F	消化器内科
47	World J Gastroenterol 2010;16:1890-5.	Prognosis of cancer with branch duct type IPMN of the pancreas	Ikeuchi N, Itoi T, Sofuni A, Itokawa F, Tsuchiya T, Kurihara T, Ishii K, Umeda J, Moriyasu F, Kasuya K, Tsuchida A	消化器内科
48	Am J Gastroenterol 2010;105:93-9.	Single Balloon enteroscopy-assisted ERCP in patients with Billroth II gastrectomy or Roux-en-Y anastomosis(with video)	Itoi T, Ishii K, Sofuni A, Itokawa F, Tsuchiya T, Kurihara T, Tsuji S, Ikeuchi N, Umeda J, Moriyasu M	消化器内科
49	Dig Endosc 2009;21(suppl. 1): S53-S56	EUS-guided pancreatic pseudocyst drainage:simultaneous placement of stents and nasocystic catheter using double-guidewire technique	Itoi T, Itokawa F, Tsuchiya T, Kawai T, Moriyasu M	消化器内科
50	Clinical Nephrology 72(3): 244-246, 2009	Influence of darbepoetin- α therapy on HbA1c values in hemodialysis patients	Okada T.	腎臓内科
51	Hypertens Res 32: 1123-1129, 2009	Prognostic significance of home blood pressure control on renal and cardiovascular outcomes in elderly patients with chronic kidney disease	Okada T.	腎臓内科
52	Internal medicine 48(17): 1495-1499, 2009	Influence of age and nutritional status on glycated albumin values in hemodialysis patients	Okada T.	腎臓内科

小計
13件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
53	Int J Neuropsychopharmacol 12:191-199, 2009.	A randomized cross-over study of a traditional Japanese medicine (kampo), yokukansan, in the treatment of the behavioural and psychological symptoms of dementia.	Mizukami K	老年病科
54	Eur J Neurol 16:212-217, 2009	Differences in clinical course between dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease.	Hanyu H	老年病科
55	Geriatrics Gerontology International 9:16-20, 2009	Longitudinal patterns of unawareness of memory deficits in Alzheimer's disease.	Akai T	老年病科
56	J Am Geriatr Soc 57:177-179, 2009	Pioglitazone improved cognition in a pilot study on patients with Alzheimer's disease and mild cognitive impairment with diabetes mellitus.	Hanyu H	老年病科
57	J Am Geriatr Soc 57:1130-1131, 2009	The one-minute mental status examination in the Memory Clinic	Hanyu H	老年病科
58	Int J Geriatr Psychiatry 24:1034-1035, 2009	Differentiation of dementia with Lewy bodies from Alzheimer's disease using the Frontal Assessment Battery test.	Hanyu H	老年病科
59	J Neurol 250: 1570-1571, 2009	Frontal lobe dysfunctions in subjects with mild cognitive impairment.	Hanyu H	老年病科
60	日本医師会雑誌 2009;138:S54-57.	生涯教育シリーズ77:高齢者診療マニュアル(林泰史、大内尉義、上島国利、鳥羽研二)	岩本 俊彦	老年病科
61	Brain Res 1253:15-26 2009	Isoform-dependent immunolocalization of 14-3-3 proteins in developing rat cerebellum	Umahara T	老年病科
62	Geriatr Gerontol Int. 2009 Dec;9(4):395-8.	Peripheral T-cell lymphoma presenting as myelofibrosis with the expression of basic fibroblast growth factor.	Kikukawa M	老年病科
63	Molecular Medicine Reports , 2 (2): 199-203 , 2009. 3	Mitochondrial depolarization and apoptosis associated with sustained activation of c-jun-N-terminal kinase in the human multiple myeloma cell line U266 induced by 2-aminophenoxazine-3-one	Takasaki A	老年病科
64	j.neurobiolaging. 2009. 10. 009	Efficacy of PPAR-γ agonist pioglitazone in mild Alzheimer disease	Sato T	老年病科
65	臨床病理 57(5):417-424, 2009	重症型血友病Bの第IX因子遺伝子内検出された2つの遺伝子変異の検討	清田 育男	臨床検査医学科
66	日内会誌 98(7):1599-1607, 2009	凝固因子欠乏症の疫学、遺伝子解析	篠澤 圭子	臨床検査医学科
67	日本検査血液学会雑誌 10(2):202-210, 2009	新たな可溶性フィブリン測定試薬(ナノピアSF)の評価	福武 勝幸	臨床検査医学科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
68	臨床病理 57(10):999-1003, 2009	後天性血友病Aに関する凝血学的検査の注意 点	天野 景裕	臨床検査医学科
69	日本エイズ学会誌 11(3):192-198, 2009	原発性滲出性リンパ腫	四本 美保子	臨床検査医学科
70	日本検査血液学会雑誌 11(1):96-102, 2010	FDPのハーモナイゼーションについて	福武 勝幸	臨床検査医学科
71	臨床病理 58(2):124-130, 2010	HIV-1 RNA測定法におけるリアルタイムPCR 法の有用性と限界	四本 美保子	臨床検査医学科
72	British Journal of Haematology 148(5):807-808, 2010	Central nervous system T-cell lymphoma in acquired immunodeficiency syndrome	Yotsumoto Mihoko	臨床検査医学科
73	精神科治療学 24(1): 125-132, 2009	睡眠相後退症候群に対するメラトニン治療 効果とその臨床背景に関する研究	駒田 陽子	メンタルヘルス科
74	Sleep Med 10(9): 961-966, 2009	Comparison of clinical characteristics among narcolepsy with and without cataplexy and idiopathic hypersomnia without long sleep time, focusing on HLA-DRB1(*)1501/DQB1(*)0602 finding.	Sasai T	メンタルヘルス科
75	Tohoku J Exp Med 219(1): 11-16, 2009	Elevated risk of motor vehicle accident for male drivers with obstructive sleep apnea syndrome in the Tokyo metropolitan area.	Komada Y	メンタルヘルス科
76	Tohoku J Exp Med 219(2): 85-89, 2009	Irregular sleep habits of parents are associated with increased sleep problems and daytime sleepiness of children.	Komada Y	メンタルヘルス科
77	精神科診断学・2巻第 1号・ 3-27	ICD-11「精神および行動の障害」作成の動 向	丸田 敏雅	メンタルヘルス科
78	日本社会精神医学会 雑誌 第18巻1号 P52-P62	新潟県中越地震後の地域メンタルヘルス活 動～震災3ヶ月半後及び13ヶ月後調査結果と PTSDリスク要因の分析～	直井 孝二	メンタルヘルス科
79	日本社会精神医学会 雑誌 第18巻1号 P63-P73	新潟県中越地震後の地域メンタルヘルス活 動～地域特性を活かしたメンタルヘルス活 動の試み～	直井 孝二	メンタルヘルス科
80	Scandinavian Journal of Infectious Diseases 41(3), 228-31. 2009	Cerebrospinal fluid analysis in children with seizures from respiratory syncytial virus infection.	Kawashima H.	小児科
81	Journal of Medical Virology 2009 Jun;81(6):1094-101	Modified adult measles in outbreaks in Japan, 2007-2008	Nagai M.	小児科
82	日本小児科学会雑誌 113, 1046-1048, 2009	RSウイルス感染予防を必要とする小児に関 する全国調査の解析	森 雅亮*	小児科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
83	日本小児科学会雑誌 113(11), 1755- 1757, 2009	小児クローン病に対するインフリキシマブ 使用に関する見解	田尻 仁*	小児科
84	Jpn J Clin Oncol 39(3): 163-8, 2009	Weekly administration of epoetin beta for chemotherapy-induced anemia in cancer patients: results of a multicenter, Phase III, randomized, double-blind, placebo-controlled study	Tsuboi M.	呼吸器外科・甲状腺 外科
85	Ann thorac Surg 88(5): 1583-1588, 2009	The Prognostic Impact of Main Bronchial Lymph Node Involvement in Non-Small Cell Lung Carcinoma: Suggestions for a Modification of the Staging System.	Shimada Y.	呼吸器外科・甲状腺 外科
86	Cancer Science 100(11): 2054-2059, 2009	Expression of podoplanin, CD44, and p63 in squamous cell carcinoma of the lung	Shimada Y.	呼吸器外科・ 甲状腺外科
87	Journal of Thoracic Oncology 4(12): 1455-1465, 2009	Induction of E-Cadherin in Lung Cancer and Interaction with Growth Suppression by Histone Deacetylase Inhibition	Kakihana M.	呼吸器外科・ 甲状腺外科
88	Mod Pathol 22(10): 1341-50, 2009	Immunohistochemical differential diagnosis between thymic carcinoma and type B3 thymoma: diagnostic utility of hypoxic marker, GLUT-1, in thymic epithelial neoplasms	Kojika M.	呼吸器外科・ 甲状腺外科
89	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 15(3): 144- 149, 2009	Individualized Adjuvant Chemotherapy for Surgically Resected Lung Cancer and the Roles of Biomarkers	Ikeda N.	呼吸器外科・ 甲状腺外科
90	Ann Thorac Surg. vol 88. e29-30 2009	Commissural autologous pericardial patch repair: a novel technique for active mitral valve endocarditis involving the mitral annulus.	牛島 輝明	心臓外科
91	SURGERY TODAY vol 40. 150-153 2010	Totally endoscopic closure of an atrial septal defect using the da vinci surgical system: Report of four cases	菊池 祐二郎	心臓外科
92	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery vol 9. 891-2. 2009	A novel internal thoracic artery harvesting technique via subxiphoid approach -for the least invasive coronary artery bypass grafting-	高田 宗尚	心臓外科
93	薬理と臨床19巻5号 (333-338)	心臓手術における急性期高次脳機能障害の 予防 L- α -Glycerophosphocholine(α - GPC)の評価	山本 宜孝	心臓外科
94	Circ J 74 (2) : 365-370, 2009	Patient-based outcomes using the Walking Impairment Questionnaire for patients with peripheral arterial occlusive disease treated with Lipo- PGE1	Shigematsu, H.	血管外科
95	J Neurol Sci 287 (1-2) : 45-51, 2009	Cardiovascular event rates in patients with cerebrovascular disease and atherothrombosis at other vascular locations: results from 1-year outcomes in the Japanese REACH Registry	Shigematsu, H.	血管外科
96	J Thorac Cardiovasc Surg 139(4) : e59- 62, 2009	Celiac artery coverage after occlusion test during endovascular stent grafting for thoracoabdominal aortic aneurysm	Shimazaki, T	血管外科

小計
14件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
97	Am J Cardiol 103(9): 1215-1220, 2009	Prevalence of coronary heart disease in patients with aortic aneurysm and/or peripheral artery disease	Watanabe, Y	血管外科
98	International Angiography 28(3) 232-237, 2009	Clinical comparison of two different types of bifurcated graft for postoperative baPWV and ABI	Iwahashi, T	血管外科
99	脈管学49(5): 417-422, 2009	中枢-末梢口径比の異なる分岐型人工血管を用いた腹部大動脈瘤手術の比較検討	岩橋 徹	血管外科
100	Circulation J 73:776-778, 2009	Recovery of cardiomegaly after treatment of traumatic popliteal arteriovenous fistula	Shunya Shindo.	血管外科
101	血栓と循環 17:112-114, 2009	日本における閉塞性動脈硬化症 (ASO) 薬物治療の現状調査—11施設の血管外科で実施したアンケート調査の集計より—、血栓症をめぐるわが国の疫学研究	進藤 俊哉	血管外科
102	血栓と循環 (Thrombosis and Circulation) 17:79-81, 2009	血管患者におけるインスリン抵抗性と炎症との関係—健康と栄養に関する国内調査から (1999-2004年) —	進藤 俊哉	血管外科
103	診断と治療97: 2437-2440, 2009	間歇性跛行に対する外科治療	進藤 俊哉	血管外科
104	医学と薬学 61:207-215, 2009	閉塞性動脈硬化症患者におけるアルプロスタジル注10 μ g「サワイ」の臨床的有用性の検討	木村桂三*	血管外科
105	Int Angiol 28:138-143, 2009	Impact of reduced endogenous anti-coagulation protein activity on vascular events of peripheral arterial disease	Komai H.	血管外科
106	日血外会誌 18: 431-435, 2009	代用血管を用いる動脈手術における手術部位感染予防の工夫	駒井宏好	血管外科
107	J Vasc Surg 50:95-99, 2009	Plasma adiponectin as a predictive factor of survival after a bypass operation for peripheral arterial disease	Komai H.	血管外科
108	血管外科 (血管外科症例検討会雑誌) 20:13-6, 2009	重症下肢虚血に対する骨髄単核球移植血管新生療法の成績と課題	駒井 宏好	血管外科
109	Acta Chir Belg. 109(6): 756-759, 2009	Vein patch angioplasty with non-penetrating titanium clips. comparison to standard suture technique	Nishibe T	血管外科
110	J Surg Res. [Epub ahead of print], 2009	Elevated Monocytes in Patients with Critical Limb Ischemia Diminish after Bypass Surgery	Nishibe T	血管外科
111	J Cardiovasc Surg (Torino) 50(4):493-499, 2009	Hybrid surgical and endovascular therapy in multifocal peripheral TASC D lesions: up to three-year follow-up	Nishibe T.	血管外科
112	Int Angiol 28(4):311-314, 2009	Fate of varicose veins after great saphenous vein stripping alone	Nishibe T.	血管外科
113	Surg Today 39(2):128-132, 2009	Cilostazol suppresses neointimal hyperplasia in canine vein grafts	Nishibe T.	血管外科

小計
17件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
114	Surg Today 39(1):21-26, 2009	Stent placement for superficial femoral arterial occlusive disease in high-risk patients: preliminary results	Nishibe T.	血管外科
115	J Vasc Surg 49(2):464-473, 2009	Limb ischemia after iliac ligation in aged mice stimulates angiogenesis without arteriogenesis	Nishibe T.	血管外科
116	日本冠疾患学会雑誌 2(15): 117-121, 2009	動脈圧波形を用いた心拍出量モニタリングの有用性—ICUにおけるOPCAB術後患者での検討	飯田 泰功	血管外科
117	J Vasc Surg 50 (5) : 1191-1195, 2009	Successful coil embolization for rupture of the subclavian artery associated with Ehlers-Danlos syndrome type IV	Iida, Y	血管外科
118	血圧 16(10): 860-865	【21世紀フォーラム 心血管病とリスクファクター7th】末梢動脈疾患の診断と治療Up-to-Date	重松 宏	血管外科
	腎臓 32(1): 26-30, 2009	【糖尿病性腎不全の合併症 予防と管理】フットケア 外科的治療	駒井 宏好	血管外科
120	心臓 41(6): 726-728, 2009	大動脈および末梢血管疾患に対するステント治療	重松 宏	血管外科
121	日本医師会雑誌 138(特別1): S83-S84, 2009	【がん診療up date】主要症候・検査所見から診断へのアプローチ 原因不明の血栓症	駒井 宏好	血管外科
122	日本医師会雑誌 138(3): 477-491, 2009	【抗血栓療法 最近の動向】抗血小板薬、抗凝固薬の使い方と問題点	内山 真一郎	血管外科
123	Vascular Lab 6(2): 114-121, 2009	脈管疾患とVascular Lab	重松 宏	血管外科
	癌と化学療法 36(4): 535-539, 2009	悪性腫瘍とDVT(Deep Vein Thrombosis)	小櫃 由樹生	血管外科
125	Cardiac Practice 20(2): 215-218, 2009	WIQ	渡部 芳子	血管外科
126	治療 91(4月増刊): 803-806, 2009	【患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス】循環器閉塞性動脈硬化症	渡部 芳子	血管外科
127	Vascular Lab 6巻増 刊: 211-215, 2009	【すばやい連携に生かせる診断・治療のポイント 救急診療と血管検査】医師とコメディカルとの連携 血管外科医とCVTの診療体系の構築	渡部 芳子	血管外科
128	Annual Review 循環 器 2009巻: 309-316, 2009	診断と治療 最近の進歩 大動脈疾患・末梢動脈疾患 TASC II	重松 宏	血管外科
129	日本脈管学会誌 特 集: 静脈疾患-新たな 展開 49:195- 200, 2009	解剖	小櫃 由樹生	血管外科

小計
16件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
130	日本外科学会誌 110:276, 2009	「新規医療材料の安全な普及をめざして— 実施基準の現況と展望—」によせて	小櫃 由樹生	血管外科
131	外科的血行再建 148-155, 2009	新しい診断と治療のABC—閉塞性動脈硬化症	進藤 俊哉	血管外科
132	胸部外科 62: 129- 132, 2009	短期間に増大した再発性左房粘液腫	岡本 祐樹	血管外科
133	J Vasc Intervent Radiol (JVIR) 20: 689-691, 2009	Leiomyosarcoma of a femoral vein misdiagnosed as deep vein thrombosis	Shunya Shindo.	血管外科
134	胸部外科 62: 538- 541, 2009	高度石灰化大動脈を伴う大動脈弁狭窄に対 する弁置換および部分弓部置換術	岡本 祐樹*	血管外科
135	胸部外科 62:413- 416, 2009	内胸動脈グラフトが開存した大動脈弁置換 術およびCABG	岡本 祐樹*	血管外科
136	超音波検査技術 34:317-323, 2009	静脈瘤と深部静脈弁形成術	駒井 宏好	血管外科
137	メディカルトリ ビューン・脈管学48 巻3号(257-262)2008	胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内 挿術	川口 聡	血管外科
138	日本人工臓器学会・ Vol. 38 No. 1(61- 65)2009	特集「人工臓器と血管ステント治療」胸部 大動脈瘤に対するステントグラフト内挿 術：適応と手技	川口 聡	血管外科
139	日本内科学会雑誌第 99巻第2号(57- 63)2010	III治療へのアプローチ 1. 大動脈瘤に対す るステントグラフト内挿術	川口 聡	血管外科
140	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery・139・59- 62・2010年3月発刊(4 月号)	Celiac artery converage after occlusion tert during endovascular stert grafting for thoracoabdominal aortic aneurysm.	島崎 太郎	血管外科
141	胸部外科 62(7):538-541, 2009	高度石灰化大動脈を伴う大動脈弁狭窄に対 する弁置換および部分弓部置換術	岡本 祐樹*	血管外科
142	胸部外科 62(5):413-416, 2010	内胸動脈グラフトが開存した大動脈弁置換 術およびCABG	岡本 祐樹*	血管外科
143	胸部外科 62(2):129-132, 2011	短期間に増大した再発性左房粘液腫	岡本 祐樹*	血管外科
144	Asian Cardiovasc Thorac Ann 17(6):660-661, 2009	Heart and great vessels after mediastinal irradiation.	Okamoto Y.*	血管外科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
145	Circ Cardiovasc Imaging 2(4):22-24, 2009	Varix of the heart.	Okamoto Y.*	血管外科
146	Ann Thorac Surg 88(3):994-996, 2009	An atypical cause of aortic valve prolapse.	Okamoto Y.*	血管外科
147	Interact Cardiovasc Thorac Surg 8(5):589-591, 2009	Cystic mass formation in constrictive pericarditis and epicarditis after open-heart surgery.	Okamoto Y.*	血管外科
148	Eur J Cardiothorac Surg 35(2)364, 2009	Migration of an inferior vena cava filter to the right ventricular outflow tract.	Okamoto Y.*	血管外科
149	Circ J 75(4):776-778, 2009	Recovery of Cardiomegaly After Treatment of Traumatic Popliteal Arteriovenous Fistula.	Shindo S.	血管外科
150	Interact Cardiovasc Thorac Surg 8(3) : 377-378, 2009	Single-stage repair of extended thoracic aortic aneurysm.	Okamoto Y.*	血管外科
151	J Cataract and Refract Surg 35:2008-2013, 2009	Adhesive retention of sodium hyaluronate ophthalmic Viscosurgical devices in an acrylic tube model and in porcine-eye corneal endothelium with different irrigation rates.	Tanaka T	眼科
152	Invest Ophthalmol Vis Sci 50: 3410-6, 2009	Effects of Dioxin promotes vascular endothelial growth factor (VEGF) production in the retina and enhances choroidal neovascularization.	Takeuchi A	眼科
153	Cornea 28:944-7, 2009	Three-dimensional optical coherence tomography-guided phototherapeutic keratectomy for granular corneal dystrophy.	Mori H	眼科
154	Japanese Journal of Ophthalmology 53: 439-440, 2009	Uveitis associated with sarcoidosis exacerbated by etanercept therapy.	Suzuki J	眼科
155	Exp Eye Res. 89:358-64, 2009	Human iris pigment epithelial cells suppress T-cell activation via direct cell contact.	Hattori T	眼科
156	Arch Ophthalmol 127:514-519, 2009	Suppression of experimental autoimmune uveoretinitis by regulatory dendritic cells in mice.	Usui Y	眼科
157	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 247:1127-1132, 2009	Presumed Vogt-Koyanagi-Harada Disease with Unilateral Ocular Involvement:Report of Three Cases.	Usui Y	眼科
158	Invest Ophthalmol Vis Sci 50:2255-61, 2009	Suppression of experimental autoimmune uveitis by angiotensin II type 1 receptor blocker telmisartan.	Okunuki Y	眼科

小計
14件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
159	Acta Ophthalmologica 88:257-262, 2010	Functional and morphological changes in the eyes of Beh · et's patients with uveitis.	Takeuchi M	眼科
160	Invest Ophthalmol Vis Sci. 51:2109-2117, 2010	Suppression of experimental autoimmune uveoretinitis by inducing differentiation of regulatory T cells via activation of aryl hydrocarbon receptor.	Zhang L	眼科
161	日眼会誌 113:819, 2009	制御性樹状細胞を用いた実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎の抑制	臼井 嘉彦	眼科
162	眼科 51: 31-35, 2009	眼窩腫瘍の統計	馬詰 和比古	眼科
163	臨眼 63: 401-408, 2009	仮面症候群	後藤 浩	眼科
164	あたらしい眼科 26: 97-99	診断の遅れた特異な前立腺癌の眼窩転移の1例	阿川 哲也	眼科
165	Jpn J Ophthalmol 54: 19-23, 2010	Comparison of Patients with Ocular Tuberculosis in the 1990s and the 2000s	Suzuki J	眼科
166	臨床眼科 64:317-322, 2010	抗アクアポリン4抗体陽性視神経炎の視野変化	毛塚 剛司	眼科
167	日本眼科学会雑誌 114:362-368, 2010	硝子体手術を施行した急性網膜壊死(桐沢型ぶどう膜炎)52例の検討	臼井 嘉彦	眼科
168	あたらしい眼科 27:539-543, 2010	急性網膜壊死患者における網膜神経線維層厚と乳頭形状の検討	臼井 嘉彦	眼科
169	眼科手術 23: 34-45, 2010	眼窩腫瘍	笠井 健一郎	眼科
170	ベーチェット病に関する調査研究 平成21年度総括・分担研究報告書: 23-28,	ベーチェット病眼症診療ガイドライン(診断)に関する研究	後藤 浩	眼科
171	Journal of Hydrocephalus Voll, 31, 2009	cerebrospinal fluid (CSF)循環障害に対する神経内視鏡の役割	三木 保	脳神経外科
172	Brain tumor Pathology, 26 :59-68, 2009	Radio-pathological characteristics of cerebellar malignant glioma in adults	Akimoto J.	脳神経外科
173	J Clin Neurosci 16: 705-708, 2009	Primary medulla oblongata germinoma: A diagnostic pitfall of posterior fossa tumor in young adult	Akimoto J.	脳神経外科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
174	J Smooth Muscle Res 45: 63-74, 2009	Differential effects of an expected actin-tropomyosin binding region of heat shock protein 20 on the relaxation in skinned carotid artery and taenia cecum from inea pig	Hashimoto R.	脳神経外科
175	Acta Neurochir (Wien) 151: 1427-1430, 2009	Dural suturing for repair of cerebrospinal fluid leak in transnasal transsphenoidal surgery	Nishioka H.	脳神経外科
176	Acta Neurochir 151: 335-340, 2009	Surgical management of giant trigeminal schwannomas extending into the parapharyngeal space	Jimbo H.	脳神経外科
177	脳腫瘍の外科 Science, Art and Technology, 112-116, 2010	拡大経蝶形骨洞的手術に必須の手技：硬膜縫合による髄液漏修復法	西岡 宏	脳神経外科
178	脳腫瘍の外科 Science, Art and Technology, 144-150, 2010	脳内悪性リンパ腫んい対する神経内視鏡下生検術の有用性	中島 伸幸	脳神経外科
179	Auris Nasus Larynx 36: 698-701, 2009	Positional and positioning down-beating nystagmus without central nervous system findings	Ogawa Y.	耳鼻咽喉科
180	Acta Otolaryngol 129: 575-579, 2009	Tracheal resection with end-to-end anastomosis preserving paries membranaceus trachea for patients with papillary thyroid carcinoma	Tsukahara K.	耳鼻咽喉科
181	Acta Otolaryngol 129: 1498-1502, 2009	Surgical management of tracheal shaving for papillary thyroid carcinoma with tracheal invasion.	Tsukahara K.	耳鼻咽喉科
182	Otol Neurotol 30: 430-431, 2009	Chronic otitis media with cholesteatoma: middle ear/inner ear interaction	Inagaki T.	耳鼻咽喉科
183	Eur Arch Otorhinolaryngol 266: 1589-1593, 2009	Over-injection of autologus fat in the vocal fold: how to remove the excess?	Nakamura M.	耳鼻咽喉科
184	CHEST 135: 337-343, 2009	Gender difference in the clinical characteristics among Japanese patients with obstructive sleep apnea syndrome	Yukawa K.	耳鼻咽喉科
185	Eur Arch Otorhinolaryngol 266: 97-104, 2009	Characterization of arytenoid vertical displacement in unilateral vocal fold paralysis by three-dimensional computed tomography	Hiramatsu H.	耳鼻咽喉科
186	耳展 52 : 127-129, 2009	骨・軟部組織同時造型モデルの真珠腫手術への応用	鈴木 衛	耳鼻咽喉科
187	耳喉頭頸 81 : 133-140, 2009	IV. 耳鼻咽喉科医が知っておきたい形成手術 —秘伝を用いた小手術 2. 食道瘻孔の閉じ方	吉田 知之	耳鼻咽喉科
188	耳鼻臨床 102 : 889-899, 2009	耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域に対する光線力学的治療	吉田 知之	耳鼻咽喉科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
189	耳鼻臨床 102:415-422, 2009	臨床場面における難聴児への対応-聴覚・人工内耳センターへの試み-	河野 淳	耳鼻咽喉科
190	耳展 52:130-132, 2009	副鼻腔癌手術における3D実体モデルの応用	伊藤 博之	耳鼻咽喉科
191	耳鼻免疫アレルギー 27:25-30, 2009	スギ花粉症の症状の重症化およびQOLに影響を及ぼす因子に関する検討	北村 剛一	耳鼻咽喉科
192	Equilibrium Res 68:85-91, 2009	前庭神経炎、突発性難聴における自覚的視性垂直位所見	小川 恭生	耳鼻咽喉科
193	耳鼻臨床 102:303-307, 2009	甲状軟骨形成術3型が奏効した声帯萎縮による音声障害例	中村 一博	耳鼻咽喉科
194	日気食会報 60:231-239, 2009	内転型痙攣性発声障害に対する甲状披裂筋切除術と甲状軟骨形成術2型の比較検討	中村 一博	耳鼻咽喉科
195	日気食会報 60:309-315, 2009	女性ホルモン異常による低音化音声障害に対する甲状軟骨形成術4型	中村 一博	耳鼻咽喉科
196	日気食会報 60:489-494, 2009	痙攣性発声障害症例の手術方法の検討-性同一性障害による音声障害を有する症例について-	中村 一博	耳鼻咽喉科
197	日気食会報 60:23-27, 2009	甲状腺乳頭癌浸潤症例に対する気管表層切除術	塚原 清彰	耳鼻咽喉科
198	日気食会報 60:254-261, 2009	中部食道酸刺激による上部食道括約部圧の変化とglobus sensationの発現について	船戸 宣利	耳鼻咽喉科
199	耳展 51:436-441, 2009	前庭神経障害、メニエール病、突発性難聴症例における神経耳科的所見と前庭誘発筋電位の比較検討	清水 雅明	耳鼻咽喉科
200	日気食会報 60:1-7, 2009	片側声帯麻痺に対する甲状軟骨板経由披裂軟骨内転術-fenestration approach-	本橋 玲	耳鼻咽喉科
201	日本耳鼻咽喉科学会会報 112:429-433, 2009	タラボルフィンナトリウムを用いた口腔咽頭癌に対する光線力学的診断ならびに治療の検討	許斐 氏元	耳鼻咽喉科
202	日気食会報 60:464-469, 2009	頭頸部癌ハイリスク症例に対するCDDP併用術後放射線療法の安全性の検討	近藤 貴仁	耳鼻咽喉科
203	睡眠医療 3:415-420, 2009	OSASにおける顎顔面外科手術の実際-周術期管理と予後-	松尾 朗	耳鼻咽喉科
204	Journal of wound technology 4:7-11, 2009	Treatment of fingertip injuries using artificial dermis.	Sugamata A.	形成外科

小計
16件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
205	Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery 43(2): 90-93, 2009	Anatomical study of the perforators from the ulnar palmar digital artery of the little finger and clinical uses of digital artery perforator flaps	Uchida R.	形成外科
206	医療情報 28(5): 243-248, 2009	病院情報システム部門での業務継続計画 (BCP) 策定; 新型インフルエンザ influenza A (H1N1), パンデミック時にわれわれはどうするか?	大原 達美	形成外科
207	癬痕・ケロイド治療ジャーナル 3: 35-39, 2009	癬痕・肥厚性癬痕およびケロイドの組織所見	泉 美貴	形成外科
208	日本美容外科学会会誌 31: 110-115, 2009	上眼瞼除皺術におけるわれわれの工夫	菅又 章	形成外科
209	日本熱傷学会会誌 35: 55-62, 2009	小児の生活環境における特殊損傷-化学損傷・電撃傷-	菅又 章	形成外科
210	癬痕・ケロイド治療ジャーナル 3: 49-52, 2009	小児熱傷における肥厚性癬痕の長期結果からみたメッシュ植皮の検討	菅又 章	形成外科
211	PEPARS 25: 49-54, 2009	小児手の熱傷の治療	松村 一	形成外科
212	PEPARS 25: 55-63, 2009	小児の陰部・下肢熱傷	吉澤 直樹	形成外科
213	European Journal of Anaesthesiology 26:469-474, 2009	Effects of temperature gradient reduction in three different carbon dioxide absorbents	Hirabayashi G	麻酔科
214	Neurochem Res 34:1555-1561, 2009	Reduction of brain infarction induced by a transient brain ischemia in mdrla knockout mice	Murozono M	麻酔科
215	J Biol Chem 285(1):741-750, 2009	Increased potassium conductance of brain mitochondria induces resistance to permeability transition by enhancing matrix volume	Hansson M. J*	麻酔科
216	Exp Neurol 218(2):353-362, 2009	Evaluation of putative inhibitors of mitochondrial permeability transition for brain disorders-specificity vs. toxicity	Morota S*	麻酔科
217	小児口腔外科学会雑誌19(1), 32-34, 2009	KTPレーザーによる光凝固療法が奏功した下唇血管腫の1例	牛田 環, 里見 貴史, 虹川 東嗣, 土屋 浩昭, 藤川 考, 千葉 博茂	歯科口腔外科
218	J Oral Maxillofac Surg67(11), 2412-2417, 2009	Effect of ibuprofen on osteoblast differentiation of porcine bone marrow-derived progenitor cells.	Abukawa H, Phelps M, Jackson P, Smith R, Vacanti J, Kaban L, Troulis M	歯科口腔外科
219	Dental Materials Journal28(4), 409-418, 2009	Bonding strength of Autopolymerizing Resin to Nylon Denture Base Polymer	Katsumata Y, Hojo S, Hamano S, Watanabe T, Yamaguchi H, Okada S, Teranaka T, Ino S	歯科口腔外科

小計
15件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
220	Dental Materials Journal29(1), 30-34, 2009	The effect of surface roughness on the Weibull distribution of porcelain strength	Nakamura Y, Hojo S, Sato H	歯科口腔外科
221	日本口腔科学会雑誌58(4); 147-150, 2009	当科における中心静脈ライン挿入の臨床的検討	里見 貴史, 長谷川 温 渡辺 正人, 三木 保 千葉 博茂	歯科口腔外科
222	Oral Science International 6(1), 1-7, 2009	Analysis of Pattern of Maxillofacial Fracture by Five Departments in Tokyo	Sasaki R, Ogiuchi H Kumasaka A, Ando T, Nakamura K, Ueki T, Okada Y, Asanami O, Chigono Y, Ichikawa Y Satomi T, Matsuo A, Chiba H	歯科口腔外科
223	北海道医療大学歯学雑誌第28(1), 1-5, 2009	急速な再発、転移をきたした顎下腺原発粘表皮癌の1例	里見 貴史, 河野 通秀 続 雅子, 渡辺 正人, 蔵口 潤, 松林 純, 長尾 俊孝, 千葉 博茂	歯科口腔外科
224	小児口腔外科学会雑誌19(1), 35-39, 2009	13女児の下顎に発生した炎症性筋線維芽細胞腫の1例	里見 貴史, 松田 憲一 渡辺 正人, 松林 純, 長尾 俊孝, 千葉 博茂	歯科口腔外科
225	日本有病者歯科医療学会雑誌18(1), 17-22, 2009	慢性乳児期発症神経皮膚関節症候群患者の抜歯経験	里見 貴史, 続 雅子, 河野 通秀, 仲井 孝之 伊能 智明, 千葉 博茂	歯科口腔外科
226	In Vivo23, 577-582, 2009	Effect of scutellariae radix ingredients on prostaglandin E2 production and COX-2 expression by LPS-activated macrophage	Kaneko T, Chiba H, Horie N, Kato T, Kobayashi M, Hashimoto K, Kusama K Sakagami H	歯科口腔外科
227	Sleep and biological Rhythms7, 3-10, 2009	Good esthetic results after modified maxillomandibula advancement for obstructive sleep apnea syndrome	Matsuo A, Nakai T, Toyoda J, Takahashi H, Suzuki I, Chiba H	歯科口腔外科
228	Oral Science International6, 27-35, 2009	Preliminary clinical study to evaluate the relationship between systemic bone turnover and the microstructure of the alveolar bone	Arisaka R, Matsuo A, Chiba H, Takahashi H, Takeuchi S, Watanabe M, Hojo S	歯科口腔外科
229	Oral Science International6, 63-72, 2009	Computed tomographic evaluation of bone quality of the mandible reconstructed by particular cellular bone and marrow combined with platelet rich plasma	Iwamoto M, Matsuo A, Kato N, Takeuchi S, Takahashi H, Hojo S, Chiba H	歯科口腔外科
230	睡眠医療3(3), 415-420, 2009	OSASの顎顔面外科治療 OSASにおける顎顔面外科手術の実際-術後管理と予後-	松尾 朗, 仲井 孝之, 豊田 潤, 千葉 博茂, 長谷川 達哉	歯科口腔外科

小計
11件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
231	Diabetes Research and Clinical Practice 83, 308-315, 2009	Multi-center intervention study on glycohemoglobin(HbA1c) and serum, high-sensitivity CRP (hs-CRP) after local anti-infections periodontal treatment in type 2 diabetic patients with periodontal disease	Katagiri S , Nitta H , Nagasawa T, Uchimura I, Izumiyama H, Inagaki K, Kikuchi T , Noguchi T, Kanazawa M , Matsuo A, Chiba H, Nakamura N, Inoue S, Ishikawa I, Izumi Y	歯科口腔外科
232	日本口腔科学会雑誌 59(1), 41-44, 2010	義歯破折片の誤飲により開腹手術を要した1例	蔵口 潤、里見 貴史、長谷川 温、続 雅子、渡辺 正人、千葉 博茂	歯科口腔外科
233	セラピューテック・リサーチ 31(3), 399-405, 2010	口腔乾燥に対するニザチジンの効果	小川 隆、高田 広嗣、佐藤 雄一	歯科口腔外科
234	In Vivo 24, 55-58, 2010	Inhibition of Prostaglandin E2 Production by Flavone and its Related Compounds	Kaneko T, Chiba H, Horie N, Kato T, Kobayashi M, Hashimoto K, Kusama K and Sakagami H	歯科口腔外科
235	日本口腔科学会雑誌 59(1), 50-55, 2010	高IgG4血症と間質性腎炎を合併したミクリツ病の1例	坂口和歌子、金子忠良、高橋英俊、千葉博茂	歯科口腔外科
236	Respirology 15, 93-98, 2010	Clinical characteristics of familial obstructive sleep apnea syndrome in Japanese	Matuo A, Inoue Y , Tsuiki S	歯科口腔外科
237	Tohoku Experimental Medicine 220(1), 67-75, 2010	Beneficial role of periosteum in distraction osteogenes	Takeuchi S, Matuo A, Chiba H	歯科口腔外科
238	感染症学会誌 17(1), 42-43, 2010	インプラント術後感染について	松尾 朗、千葉 博茂	歯科口腔外科
239	Odontology 98(1) 85-88, 2010	Clinical application of a cusutom made bioresorable raw particulate hydroxyapatite/poly-L-lactide mesh tray for mandibular reconstruction	Matuo A, Chiba H, Takahashi H	歯科口腔外科
240	Int J Gynecol Cancer. 2009 Feb;19(2):300-3	Pilot study on transdiaphragmatic thoracoscopic-assisted pleural biopsy and intrathoracic washing cytology for Stage IIIc ovarian cancer with diaphragmatic metastases.	Terauchi F	産科・婦人科
241	J Obstet Gynaecol Res. 2009 Apr;35(2):315-9	Prognostic factor on optimal debulking surgery by maximum effort for stage IIIc epithelial ovarian cancer.	Terauchi F	産科・婦人科

小計
11件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
242	Hum Reprod. 2010 Sep;25(9):2229-38 Epub 2010 jul 27	Possible role of the exchange protein directly activated by cyclic AMP (Epac) in the cyclic AMP-dependent functional differentiation and syncytialization of human placental BeWo cells	Isaka K	産科・婦人科
243	J Cutan Pathol. 2009 Sep;36(9):929-36	Matrix metalloproteinase-26 is present more frequently in squamous cell carcinomas of immunosuppressed compared with immunocompetent patients	Isaka K	産科・婦人科
244	Int J Urology Dec;16(12):267-70 2009	Primary seminoma of the prostate	Hashimoto T	泌尿器科
245	Int J Urology Dec;16(5):487-92 2009	Radical retropubic prostatectomy with running vesicourethral anastomosis and early catheter removal; our experience	Ozu C	泌尿器科
246	Human Cell Feb;22(1):25-9 2009	Establishment and characterization of a new squamous cell carcinoma cell line, TMUU-08, derived from human bladder cancer	Ozu C	泌尿器科
247	Br J Cancer Jul 21:101(2);287-94 2009	Ammexin II represents metastatic potential in clear-cell renal cell carcinoma	Ohno Y	泌尿器科
248	日本泌尿器科学会雑誌 Mar, (3)495-9 2009	Case of renal cell carcinoma metastasized to iliopsoas muscle	Satake N	泌尿器科
249	J Urol. Feb;181(2):480-485 2009	Preoperative prognostic nomogram (probability table) for renal cell carcinoma based on TNM classification.	Kanao K*	泌尿器科
250	Brachytherapy 8(1):52-6, 2009	Prediction of seed migration after transperineal interstitial prostate brachytherapy with I-125 free seeds	Sugawara A*	泌尿器科
251	BJU int 104: 1215-1218, 2009	Tumour length of the largest focus predicts prostate-specific antigen-based recurrence after radical prostatectomy in clinically localized prostate cancer.	Mizuno R*	泌尿器科
252	Int J Urol 16(12):936-40, 2009	Are predictive models for cancer volume clinically useful in localized prostate cancer?	Ishida M*	泌尿器科
253	Int J Clin Oncol 14(6):502-6, 2009	Prediction of PSA bounce after permanent prostate brachytherapy for localized prostate cancer.	Kanao K*	泌尿器科
254	Japan Journal of Endourology&ESWL 22(2):166-172, 2009	ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除術 (robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy:RALP)における神経温存のコツ	吉岡 邦彦	泌尿器科
255	Leuk Res 33: 756-758, 2009	Evaluation of cardiac iron overload in transfusion-dependent adult marrow failure patients by magnetic resonance imaging	Park J	放射線科

小計
14件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
256	Clin Imaging 33(6): 447-453, 2009	Perfusion study of liver lesions with superparamagnetic iron oxide: distinguishing hepatocellular carcinoma from focal nodule hyperplasia	Saito K	放射線科
257	Strahlenther Onkol 185(12): 782-788, 2009	Proton-beam therapy for hepatocellular carcinoma associated with portal vein tumor thrombosis	Sugahara S	放射線科
258	Cancer 115(23): 5499-5506, 2009	Proton beam therapy for hepatocellular carcinoma: the University of Tsukuba experience	Nakayama H	放射線科
259	臨床画像 25(4月創刊号): 56-73, 2009	救急画像診断: 見逃してはならないポイント集6 小児上気道閉塞性疾患	原 裕子	放射線科
260	日本小児放射線学会雑誌 25: 94-105, 2009	小児・新生児領域の医原性疾患の画像 胸部	原 裕子	放射線科
261	Int J Radiat Oncol Biol Phys 76(2): 460-466, 2010	Proton beam therapy for large hepatocellular carcinoma	Sugahara S	放射線科
262	Int J Cancer, 124(5), 1060-71, 2009.	Inhibition of autophagy at a late stage enhances imatinib-induced cytotoxicity in human malignant glioma cells.	Shingu T	臨床腫瘍科
263	Autophagy, 5(4), 537-9, 2009.	Stage-specific effect of inhibition of autophagy on chemotherapy-induced cytotoxicity.	Shingu T	臨床腫瘍科
264	Clinical Transplantation ISSN' 1399, 2009	Application of an automated cardiopulmonary resuscitation device for kidney transplantation from uncontrolled donation after cardiac death donors in the emergency department. clinical transplantation epub ahead of print	Morozumi J.	救急医学
265	Journal of Trauma 67(3): 557-564, 2009	Does splenic preservation treatment (embolization, splenorrhaphy, and partial splenectomy) improve immunologic function and long-term prognosis after splenic injury?	Nakae H.	救急医学
266	Journal of Trauma 66(1): 110-114, 2009	Enteral supplementation enriched with glutamine, fiber, and oligosaccharide prevents gut translocation in a bacterial overgrowth model	Azuma H.	救急医学
267	Journal of Trauma 66(5): 1281-1285, 2009	Effect of intravenous atrial natriuretic peptide on pulmonary dysfunction and renal function following burn shock	Oda J.	救急医学
268	Journal of Trauma 66(6): 1525-1530, 2009	Hypothermia during burn surgery and postoperative acute lung injury in extensively burned patients	Oda J.	救急医学

小計
13件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
269	Journal of Burn Care Research 30(2): 335-340, 2009	Protective effects of free radical scavenger edaravone against xanthine oxidase-mediated permeability increases in human intestinal epithelial cell monolayer	Mukojima K.	救急医学
270	Journal of Trauma 67(2): 245-251, 2009	Introduction of mobile angiography into the trauma resuscitation room	Morozumi J.	救急医学
271	Resuscitation 80(6): 717, 2009	Letter to the editor: Successful kidney transplantation from donation after cardiac death using a load-distributing-band chest compression device during long warm ischemic time.	Morozumi J.	救急医学
272	Injury Extra 40(6): 106-108, 2009	Acute lung injury secondary to intra-abdominal hypertension and abdominal decompression in a burn patient	Oda J.	救急医学
273	J Clin Invest 119: 1241-1250, 2009	CD1d-dependent regulation of bacterial colonization in the intestine.	Nieuwenhuis EES*	感染制御部
274	Virus Res 139: 131- 134, 2009	Characteristics of a novel Pseudomonas aeruginosa bacteriophage, PAJU2, which is genetically related to bacteriophage D3.	Uchiyama J*	感染制御部
275	Microbiol Immunol 53: 502-511, 2009	Interleukin-1 deficiency in combination with macrophage depletion increases susceptibility to Pseudomonas aeruginosa bacteremia.	Horino T*	感染制御部
276	感染症学雑誌 83 No. 1, 60-63, 2009	血球貪食症候群を合併したデング熱の1例	中村 造	感染制御部
277	感染症学雑誌 83 No. 4, 363-368, 2009	菊池病69例の臨床的検討	中村 造	感染制御部
278	日本病院薬剤師会雑誌(1341-8815)45巻3号 Page373-376(2009.03)	抗Human Immunodeficiency Virus (HIV)薬の使用実態と薬剤費の変遷	関根祐介	薬剤部
279	Int. J. Clin. Oncol. 14 :518-524(2009)	Receptor occupancy theory-based analysis of interindividual differences in antiemetic effects of 5-HT3 receptor antagonists	Ayuhara. H	薬剤部
280	Metabolism	Long-term pioglitazone therapy improves arterial stiffness in patients with type2 diabetes mellitus	Harashima K, hayashi J, Tsunoda T	糖尿病・代謝・内分泌内科
281	Endocrine Journal, 56(3), 435-440, 2009	Falsely elevated thyriod-stimulating hormone (TSH) level due to macro-TSH	Sasaki H, Fukuda G, Odawara M	糖尿病・代謝・内分泌内科

小計
13件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
282	Thyroid, 20(3), 341-342, 2010	Serum Chemokine (C-X-C Motif) Ligand 10 Levels Are Elevated in Patients with Graves' Disease in Long-term Remission	Sasaki H, Togawa Y, Fukuda G, Ito R, Miwa T, Odawara M	糖尿病・代謝・内分泌内科
283	medical forum chugai: 22-27, 2009. 01	進行食道癌に対する術前化学放射線療法の有用性と患者血清を用いたプロテオーム解析による効果予測	逢坂 由昭	消化器外科・小児外科
284	J Hepatobiliary Pancreat Surg 16(3):376-381, 2009. 01	p53 gene mutation and p53 protein overexpression in a patient with simultaneous double cancer of the gallbladder and bile duct associated with pancreaticobiliary maljunction	Kasuya K.	消化器外科・小児外科
285	消化器内視鏡 21(1):84-90, 2009. 01	ここまで使える経鼻内視鏡 細径経鼻内視鏡を用いた食道蠕動運動検査の有用性の検討	河合 隆*	消化器外科・小児外科
286	臨床外科64(1): 61-66, 2009. 01	慢性肝障害予後予測因子-MELD score	河地 茂行*	消化器外科・小児外科
287	手術63(2):197-203, 2009. 02	自家静脈グラフト間置による中肝静脈再建を伴う再肝切除	加藤悠太郎*	消化器外科・小児外科
288	International journal of molecular medicine 23 :709-716, 2009. 03	Growth inhibitory effects of vitamin K2 on colon cancer cell lines via different types of cell death including autophagy and apoptosis	Kawakita H.	消化器外科・小児外科
289	Archives of biochemistry and biophysics 483 :90-98, 2009. 03	Molecular and functional characterization of choline transporter in human colon carcinoma HT-29 cells	Kouji H.	消化器外科・小児外科
290	消化器外科 32(5):605-608, 2009. 04	臨床症状からの癌診断プロセス 食欲不振・るいそう	尾形 高士	消化器外科・小児外科
291	手術63(5):665-667, 2009. 05	ステントグラフトで止血しえた膵頭十二指腸切除術後出血の1例	池田 隆久	消化器外科・小児外科
292	日本消化器外科学会雑誌42(6):669-673, 2009. 05	アニサキス症による成人小腸重積症の1例	日比 康太*	消化器外科・小児外科
293	手術63(5):665-667, 2009. 05	ステントグラフトで止血しえた膵頭十二指腸切除術後出血の1例	池田 隆久	消化器外科・小児外科
294	臨床消化器内科 24(5):579-581, 2009. 05	細径経鼻内視鏡によるGERDの評価	河合 隆*	消化器外科・小児外科
295	日本臨床67(増刊号3):61-65肝臓, 2009. 05	肝内胆管癌(胆管細胞癌):肉眼分類と病理学的特徴	島津 元秀	消化器外科・小児外科
296	臨床消化器内科 24(5):579-585, 2009. 05	GERDの臨床-最近の進歩 細径経鼻内視鏡によるGERDの評価	河合 隆*	消化器外科・小児外科
297	消化器の臨床 12(3):262-266, 2009. 06	薬剤による消化管出血の診断と治療指針(鑑別診断を含む) 上部消化管出血	河合 隆*	消化器外科・小児外科

小計
16件

2. 論文発表等の実績

NO	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部署
298	肝胆膵画像 11(4):395-401, 2009.07	主要成分の乏しい膵SPNの1例	辻 修二郎*	消化器外科・小児外科
299	今日の移植 22(4):417-423, 2009.07	肝癌におけるABO血液型不適合移植 最近の進歩	島津 元秀	消化器外科・小児外科
300	日本外科系連合学会 会誌34(4): 651- 656, 2009.08	急性腹症で発症したHenoch-Schoenlein紫斑病の1成人例	向出 将人	消化器外科・小児外科
301	消化器内視鏡 21(8):1213-1220, 2009.08	NERD, RE, Barrett食道に対する経鼻内視鏡とカプセル内視鏡	河合 隆*	消化器外科・小児外科
302	日本腹部救急医学会 雑誌29(5):703-707, 2009.09	絞扼性イレウスの補助診断法としてのSIRSの評価	壽美 哲生	消化器外科・小児外科
303	手術63(11):1703- 1708, 2009.09	二期的肝切除により切除し得た肝類上皮性血管内皮腫の1例	粕谷 和彦	消化器外科・小児外科
304	Journal of biological chemistry 284(42) : 29041-29049, 2009.1	Prolyl 4-Hydroxylation of α -Fibrinogen A nobel protein modification revealed by plasma proteomics	Ono M.*	消化器外科・小児外科
305	日本外科系連合学会 会誌34(5): 795- 800, 2009.1	保存的加療後にドレナージが必要となった魚骨による頸部食道穿孔の1例—本邦報告例の集計—	篠原 玄夫	消化器外科・小児外科
306	日本外科系連合学会 会誌34(5): 752- 758, 2009.1	開腹歴のないイレウス12例の検討	園田 一郎	消化器外科・小児外科
307	臨床外科64(11):300- 302, 2009.1	肝内胆管—空腸吻合	島津 元秀	消化器外科・小児外科
308	臨床外科64(11): 372-375, 2009.1	腹腔鏡補助下 胃切除術後B-1再建	尾形 高士	消化器外科・小児外科
309	J Hepatobiliary Pancreat Surg 2009 Oct 6, 2009.1	Endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage	Itoi T*	消化器外科・小児外科
310	癌と化学療法 36(12):2442-2444, 2009.11	集学的治療後8年目に再発を来した進行食道癌の1例	太田 喜洋	消化器外科・小児外科
311	癌と化学療法 36(12):2321-2323, 2009.11	集学的治療にて長期生存した胃癌術後肝転移の1例	片柳 創	消化器外科・小児外科
312	日本旅行医学会学会 誌7(2):124-127, 2009.12	障害者の旅行医学 —人工肛門患者のトイレの普及に向けて—	土田 明彦	消化器外科・小児外科
313	新薬と臨床58(8): 1406-1408, 2009.08	第9回東京UGI研究会 術前診断におけるNBI併用拡大内視鏡および酢酸+インジコカルミン散布の有用性についての検討	川上 浩平*	消化器外科・小児外科

小計
16件
合計
313件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 (行岡 哲男)
管理担当者氏名	事務部長 (松田功)、薬剤部長 (明石貴雄)、総務課長 (吉岡 博) 医事課長 (出家敏之) 人事課長 (中野隆介) 中央病歴室長 (山本謙吾)、安全管理室長 (相馬孝博) 感染制御部長 (松本哲哉)、臨床工学部長 (内野博之)、各診療科長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 薬剤部 中央病歴室	日誌等はファイルにより保管。 診療に関する諸記録はターミナル ディジットファイリング方式を 取り、入院・外来別に1患者 1ファイルを原則に保管管理 している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	担当する各部門において、 コンピュータ又はファイル等により 保管し管理している。
	高度の医療の提供の実績	各診療科 医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課 中央病歴室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規 一則 号第 一 掲条 げの 十一 体第 一 確 保各 号状 及び 第九 条の 二 十三 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室	担当する各部門において、 コンピュータ又はファイル等により 保管し管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一一条の十一	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一一条の十一	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項各号及び第九条の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部 放射線部
	第一項各号及び第九条の二十三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部
第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 放射線部	
第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 放射線部	
		担当する各部門において、コンピュータ又はファイル等により保管し管理している。	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長（行岡哲男）
閲覧担当者氏名	事務部長（松田功）、薬剤部長（明石貴雄）、総務課長（吉岡博） 医事課長（出家敏之）人事課長（中野隆介） 中央病歴室長（山本謙吾）、安全管理室長（相馬孝博） 感染制御部長（松本哲哉）、臨床工学部長（内野博之）、各診療科長
閲覧の求めに応じる場所	本館6階 会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	55.3 %	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠 A：紹介患者の数			23,830 人
B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			13,739 人
C：救急用自動車によって搬入された患者の数			5,428 人
D：初診の患者の数			64,077 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>ア. 医療安全管理に関する基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none">①人間は誤りをおかすという前提に基づき組織的な対策をたてる②事例に学ぶ姿勢を堅持する③職員間のコミュニケーションの障壁を排除する④医療を取り巻く環境の変化を常に捉え、高い技量レベルを確保する⑤インフォームド・コンセントの意味を理解しその充実を図る <p>イ. 医療に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">①安全管理指針で規定する医療に係る安全管理のための委員会設置②安全管理室、患者様相談窓口に関する事項③安全管理室長・統括安全管理者・医療安全管理者設置および役割に関する事項 <p>ウ. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</p> <p>エ. 院内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善策に関する基本事項</p> <p>オ. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">①報告、②患者・家族（遺族も含む）への対応、③記録、④関係機関への連絡、⑤事故調査、⑥公表 <p>カ. 医療従事者と患者の情報の共有に関する基本方針</p> <p>キ. 患者相談への対応に関する基本方針</p> <p>ク. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療事故発生防止のための総合的な対策と施設及び設備の改善計画の立案(2) 医療事故等発生状況の把握及び調査検討・病院報告制度の整備(3) 発生した重大な医療事故への対応と、改善策の職員への周知徹底	

・研修の主な内容：

- 1) 医療法に定められた従業員必須研修の実施安全に係わる研修は、6月と12月に開催している。当院には全職員を収容講堂などの会場がない（320人程度が限界）ため、同内容の研修を月～金曜日の連日行っている。これまで、当日参加できない者に対しては、①後日ビデオ上映をする②CDを貸し出すなどの方法を行っていた。しかし、直接生で講演を聴くことが最良と考え、聴講しやすい環境の工夫として、“5日間連日同内容”の講演を開催する方法とした。それでも参加ができなかった者には、これまで同様にビデオ上映によりフォローをしている（1講演につき、時間と曜日を変えながら実施、本講演8回、ビデオ上映会21回実施）。研修参加状況把握では、職員番号をカードリーダーに通す方法で管理し、個人別、所属別の参加・不参加を把握している。その上で、不参加者には診療科長・所属長（責任者）に不参加者リストを配信し、ビデオ上映会に参加を促すなどの対策を講じている。
- 2) メモリアルディ（医療安全を誓う日）の開催
当院独自の職員聴講義務研修会である。当院の重大医療事故発生を契機に、平成17年より「医療安全を誓う日」として、毎年8月第1曜日に実施している。患者、市民、従業員を対象としている（本講演1回、ビデオ上映16回）。
- 3) 中心静脈（CV）ライン挿入に関する研修（トータル知識・技術研修などを含め28回）
当院でCVラインを挿入するためには、院内規定に沿った審査を受け認定される必要がある。5年目以上の医師は条件を満たすと「認定医」となり、研修医は「施行医」認定称号である。CVラインを安全に挿入するための教育は、CVライン管理部会が担っており、知識、技術の研修を定期的に行っている。手技については卒後臨床研修センターの協力のもと実施している。
- 4) 中途採用・帰任者必須研修の実施
これまで、中途採用・帰任者への安全研修は、配属先の所属にほぼ一任した状態であったが、これを改め毎月1回定期開催することとした。安全・感染・個人情報などの安全に関する情報共有と周知を行っている。個人および所属長（責任者）に受講案内を通知し当日はカードリーダーで出欠を管理、研修受講後には「理解度自己チェック」により、研修の周知状況などの把握に努めている。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) インシデント・アクシデントレポート報告方法の変更 → イントラネットでの報告
- (2) 医療事故報告範囲基準の変更
- (3) 日本医療機能評価機構への報告
- (4) 医療事故防止および医療の質確保に関する活動
 - ・ 全死亡例患者の報告制度とその検証委員会（クオリティマネジメント小委員会）の設置
- (5) 医療安全推進委員会（多職種混成チーム）による定期的院内巡視と評価
- (6) 情報の一元化（職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理）
- (7) 多職種による合同カンファレンスの推進
- (8) インフォームド・コンセント時の複数立ち会いの推奨（看護師の立ち会いの推奨）
- (9) 医療安全情報の配信（急告等）
- (10) 「安全管理ポケットマニュアル」の作成と配布
 - (11) 抗がん剤、高カロリー輸液などの中央調剤システムの構築
 - (12) 院内「内部通報制度」の構築等
 - (13) 病院倫理委員会の設置によるコンプライアンス（法令遵守）に関わる活動
 - 1) 終末期医療のあり方に関するガイドライン作成
 - 2) 非輸血患者の対応に関するガイドライン作成
 - 3) 包括同意に関する文書作成
 - (14) 三施設間安全相互ラウンドの実施

東京医科大学病院には三施設の病院がある。同系列の医療機関として安全管理の質向上と相互理解、情報共有などを図る目的で、三キャンパス医療安全相互ラウンドを開始した。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 (4 名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 (5 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（ 4 ）名 兼任（ 3 ）名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理委員会開催のための資料準備および議事録作成と管理 (2) 医療安全推進に関わる各委員会の開催と資料作成、議事録などの管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全推進委員会の開催 2) クオリティマネジメント小委員会の開催 3) CVライン管理部会の開催 4) AED委員会開催他など (3) 各部門の医療安全管理者（リスクマネジャ）の研修に関する運営と評価 (4) 各部門における医療安全推進の状況把握と評価 (5) 安全に関する他委員会との連携強化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症対策委員会との連携と情報共有 2) 医薬品安全管理責任者との連携と情報共有 3) 医療機器安全管理責任者との連携と情報共有 4) 個人情報保護委員会との連携と情報共有他 (6) 医療事故など発生時の対応と指導、職員への周知 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故発生時の原因究明に関する調査および対策に関する活動 2) 分析対策委員会および事故調査委員会開催に関する資料準備、議事録作成と管理等 3) 管轄官庁届出に関する作業および記録類の管理 4) 職員への指導および援助、再発防止に関する対策構築 5) 患者、家族への対応 (7) 医療安全に係る取り組みの評価を行うためのカンファレンスの実施 (8) 医療安全に係る職員への教育研修会の企画と運営と評価 (9) 患者、家族への相談に関する医療安全管理者の活動実施記録などの管理 (10) その他医療安全対策の推進に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I.院内感染対策の基本的な考え方を示して、感染症発生防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。</p> <p>II.病院長直属の中心組織、感染制御部を設ける。</p> <p>III.対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染対策小委員会の設置、感染リンクドクター・リンクナースを配備する。</p> <p>IV.病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。</p> <p>V.感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況を委員会・診療合同会議にて報告する。</p> <p>VI.感染症発生時には職員は、すみやかに感染制御部へ報告し、感染制御部は原因究明・改善策を委員会にあげる。委員会から全職員に改善策を周知徹底させる。</p> <p>VII.指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し、協力を求める。</p> <p>VIII.職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>I. 微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析</p> <p>II. 感染制御部病棟ラウンド状況の報告（対象：血液・髄液培養分離例、広域抗菌薬長期間投与例、耐性菌分離例、アウトブレイク事例等）</p> <p>III. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議</p> <p>IV. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、サイボウズや書面等による委員会からの情報発信など）</p> <p>V. マニュアル・ガイドラインなど院内全般に渡る規約の最終決議</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年30回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>(1) 新採用者オリエンテーション：院内感染対策組織・マニュアル、標準予防策、感染経路別予防策 針刺し・切創防止対策、医療廃棄物、洗浄・消毒・滅菌の基本、手指衛生・個人防護具着脱演習</p> <p>(2) 医療安全講演：感染予防策の基本、クレーム対応、危険薬物の取扱い、個人情報保護について</p> <p>(3) 感染リンクドクター勉強会：抗菌薬の適正使用、新型インフルエンザ対策、当院における感染性 胃腸炎発生事例、ノロウイルス感染症について、多剤耐性菌の耐性機序と治療薬、当院の検出状 況と感染対策の実際、ラウンド結果報告</p> <p>(4) 新任感染リンクナース研修：標準予防策・感染経路別予防策、針刺し・切創防止対策、手指衛生 ・個人防護具着脱演習</p> <p>(5) 感染リンクナース研修会：役割、年間目標・活動計画立案、グループワーク実施・年間活動報告 院内感染対策ラウンド結果報告、新型インフルエンザ対策、当院の陰圧管理診察室・病室見学・ 説明、感染性胃腸炎感染防止対策、当院における感染性胃腸炎発生事例、アウトブレイク時の対 応の実際について</p> <p>(6) 臨床研修医のためのレクチャー：感染症診療のフレームワーク、培養検査とその解釈、微生物 抗菌薬、感染症、感染症治療の評価、インフルエンザについて</p> <p>(7) 全職員対象感染対策研修会：新型インフルエンザとパンデミック対策、新型インフルエンザ のトリアージと対応、予防対策、当院で経験した新型インフルエンザ</p> <p>(8) 他：部署単位の勉強会（血管内留置カテーテル関連血流感染サーベイランスについて、 標準予防策・接触感染予防策について-MRSA対策を中心に）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無）感染症リストによる電話・報告書提出</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌 検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導</p> <p>(2) 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、病院環境のチェックと指導</p> <p>(3) マニュアルの見直し・検討・改訂</p> <p>(4) 感染リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施</p> <p>(5) 感染リンクナースによる自己チェック表を用いた自己評価と改善活動報告</p> <p>(6) 部署、診療科別の耐性菌検出者・感染者のサーベイランス情報による注意情報発信</p> <p>(7) 健康管理室との協同によるワクチン接種プログラムの計画立案・実施</p> <p>(8) 地域医療機関による感染症研究会開催による医療関連感染対策のための勉強会</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： (1) 新規採用者研修（麻薬の管理、劇・毒薬の管理、向精神薬の管理、覚せい剤原料の管理、血漿分画製剤の管理） (2) 医薬品に関する研修（全職員対象：「危険薬の取扱いについて」）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 （有・無） ・業務の主な内容： 手順書及びチェックシートを作成した。チェックシートによる業務の確認は病院全体及び薬剤部については年 2 回、病棟については月 1 回行い、期限切迫医薬品の回収も併せて行っている。採用医薬品については医療安全の観点からも検討している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医薬情報室には専任薬剤師を 3 名配置している。 (2) 医薬品の安全使用に関する情報は厚生労働省ホームページ、インターネット、新聞、雑誌、製薬企業等から入手し必要に応じて加工し、イントラネット（薬剤部ニュース）、薬事ニュース、各種会議で解説・周知している。 (3) 外観変更医薬品の画像を薬事ニュースに掲載、隔壁未開通事例の多い輸液の採用中止、プレフィルドシリンジの積極的採用を行っている。 (4) 抗がん剤のオーダーは薬剤部で全数チェックしている（レジメン、投与間隔等） (5) 入院患者の抗がん剤の点滴調製を薬剤部で実施している。 (6) 手術室、ICU・CCUにも薬剤師を配置し医薬品の適正な使用、在庫管理をしている。 (7) 処方せん疑義照会を集計・分析して、診療科に必要な情報を提供している。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 88 回 (含む放射線機器年6回)
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器をはじめ、厚生労働省の指導事項である特定管理医療機器の7機種(追加された粒子線照射装置は保有しない)等及び新規採用時の機器に対しての説明会や研修会を、関係する医療従事者に対して、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施している。(人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなど)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (有・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画にもとづきメーカーによる年1~2回の定期保守点検のほか、使用前・使用中・使用後点検等を、臨床工学部内及び現場の医師・看護師・技士(師)により実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>メーカーや日本医療機能評価機構から出される情報の収集は、関連部署はもとより安全管理室・臨床工学部・事務部資材課にて行われており、必要に応じて、安全管理室より緊急情報として院内に発信される。</p> <p>機器の安全使用を目的とした改善の実施については、機種統一された輸液ポンプのさらに安全機構が追加された機種への更新増備をし、関係する従事者への研修を実施した。また、酸素湿潤器の破損時にチューブの誤接続をするインシデントが発生したことから、誤接続ができないサイズへのパーツ変更をメーカー依頼し、全交換を実施、院内に周知した。</p>	